

平成31年度第1回みやま市総合教育会議 会議録

- ◆日時 平成31年4月22日 午前10時00分
- ◆場所 みやま市役所3階 応接室

1. 出席構成員（6名）

- ・市長 松嶋 盛人
- ・教育長 待鳥 博人
- ・教育委員 井上 正明
- ・教育委員 樺島 靖子
- ・教育委員 宮本 篤
- ・教育委員 北原 八州子

2. 事務局出席者（10名）

市長部局

- ・副市長 宮 寄 敬 介
- ・総務部長 西 山 俊 英
- ・秘書広報課長 久保井 千代

教育委員会

- ・教育部長 野田 圭一郎
- ・学校教育課長 藤 吉 裕 治
- ・社会教育課長 山 田 利 長
- ・指導室長 屋 形 朋 子
- ・学校教育課課長補佐兼
学校教育係学務担当係長 北嶋 淳一郎
- ・学校教育課総務係長 小 柳 る み
- ・学校教育課学校再編推進係長 河 野 成 嗣

3. 次第

1. 開会（市長あいさつ 教育長あいさつ）
2. 構成メンバー紹介
3. 事務局等紹介
4. 議事録署名人の指名
5. 説明
 - (1) 総合教育会議について
6. 協議事項
 - (1) 教育大綱、教育施策について

- (2) 学校再編計画について
- (3) 校地域連携について
- (4) その他

当日配布

- ・平成31年度みやま市教育委員会方針
 - ・平成31年度第1回みやま市総合教育会議資料
 - 資料① 地方教育行政の組織及び運営に関する法律【抜粋】
(昭和31年6月30日法律第162号平成27年4月1日改正)
 - 資料② 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律について【抜粋】(平成26年7月17日26文科初第490号 文部科学省初等中等教育局長通知)
 - みやま市総合教育会議運営要綱
 - 学校再編計画について
 - コミュニティ・スクールについて
 - みやま市学校運営協議会制度規則
 - ・平成30年度みやま市教育施策
-

【午前10時00分 開会】

1. 開会

市長あいさつ

本市の教育行政に関して皆様方には多大なるご尽力を賜りまして、本当にありがとうございます。深く感謝申し上げます。私は教育畑出身ですので、教育行政に関しましては深く関心を持っておりますし、これから先みやま市の将来を担う子ども達の教育に関しては、しっかり取り組んでいかなければいけないと思っております。

今まで皆様方のご尽力により、みやま市では高い学力を維持しておられることに対しまして深く敬意を表しますとともに、今後共みやま市の子ども達の育成、この地域の活性化のために皆様方のお力を是非拝借しながら、市として教育行政を進めてまいりたいと思います。

また、本日はみやま市総合教育会議において今後のみやま市の教育方針が整備されて参りますので、この充実のに向けて皆様方と共に協力していきたいと思っております。

どうぞよろしくお願い致します。

教育長あいさつ

第1回みやま市総合教育会議にご出席いただき、ありがとうございます。

本日配布しております平成31年度みやま市教育委員会方針についてお話しさせて

いただきます。教育委員会での喫緊の課題は、学校再編・統合の問題、市長公約である学校給食関係、更には施設の老朽化もございますが、次の4つをお話ししたいと思います。

1つ目の学校教育の目指すものとしたしましては、教職員が児童生徒にしっかり寄り添う安全・安心の学校を基盤として、児童生徒のたくましく生きる力を育む「行きたい。学びたい。楽しい学校」づくりに努めて参りたいと考えております。

それを見た時に小学校の課題は、人間関係力の希薄さにあるのではないかと。例えば折り合いをつける力や相手の事を思いやることが少し不足しているのではないかと。

また、中学校につながる確かな学力の定着について、小学校の全国学力調査等ではみやま市の小学生は全国越えを果たしているのですが、4月中学校入学時の調査では県平均より若干良い位で、かなり低下をしています。

中学校の課題は、挫折した時に困難を乗り越え、復元する力と確かな学力を向上し、高い志を持って社会にはばたいていくために進路実現を果たさせることを最重点項目として取り組んでいきます。

これらの方策として、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善を先生方に取り組んでいただきたい。次に、全国的な課題であるいじめの早期発見、早期対応、そして不登校の未然防止や解決及び解消については危機管理を学校へお伝えしています。道徳科の充実や健康、体力の増進、特別支援教育の充実にも力を入れていきたい。

そして大学進学も視野に入れて幼保小中高連携の確立を図って参ります。

特に幼稚園保育園と小学校の緊密な情報の共有、そして小中高、特に山門高校との連携を重視して進めていきたいと思っております。

2つ目の社会教育の目指すものとしたしましては、地域の方々の多様な人材を社会教育の活動に巻き込みながら、みやま市民が、「やりがい、生きがい」を感じるような学習や活動の推進に努めて参ります。社会教育の課題は、「学びと活動の好循環」を目指す、人づくり、つながりづくり、地域づくりにあると考えております。特に人づくりとしては後継者がかなり不足しており、若手の加入が少ないため、人材発掘が課題であると考えられます。方策としては、学びへの参加のきっかけづくりの推進、地域学校協働活動等、多様な主体との連携・協働の推進、多様な人材の幅広い活動の促進、家庭の約束10ヶ条等のみやま市「ならでは」の取り組みの充実であります。

3つ目の学校教育と社会教育をつなぐものとしては、新学習指導要領では社会に開かれた教育課程の実現を求めています。小学校では2020年、中学校では2021年から新学習指導要領が完全実施となります。核はコミュニティ・スクール、地域学校協働活動にあるため、充実させながら推進していきたいと思っております。

4つ目の働き方改革としては、小中学校の教職員は働き過ぎの傾向にあります。

そこで何を減らせるか、スクラップできるものは何かということをご各学校の校長先生方に第1回校長会にて問いかけております。出来るだけ子どもに寄り添う時間の確保をして、挨拶、清掃、整理整頓等の凡事徹底を推進していきたいと思っております。

最後になりますが、みやまの力と裾野教育は5年間に渡り推進して参りましたが、

今年度集大成と位置付けて終了していきたいと考えております。
どうぞよろしく願いいたします。

2. 構成メンバー紹介 事務局より紹介

3. 事務局等紹介 自己紹介

4. 議事録署名人の指名等

【教育部長】 議事録署名人については、申し合わせにより市長は総合教育会議の開催ごとに、教育委員会からは教育長又は教育委員を順番に充てるという事になっております。従いまして本日は、松嶋市長と待鳥教育長にお願いしたいと思いますが、よろしいですか。

・・・全員同意・・・

5. 説明

(1) 総合教育会議について

【教育部長】 多数のメンバーが新しくなっておりますので、まずはこの総合教育会議の概要についてご説明させていただきます。

「平成31年度第1回みやま市総合教育会議資料 資料① 資料②」
内容説明

【教育部長】 それでは協議事項に入りますが、議長は主宰である市長にお願いしたいと思いますが、よろしいですか。

・・・全員同意・・・

6. 協議事項

(1) 教育大綱、教育施策について

【教育部長】 教育大綱の策定については、総合教育会議と同様に平成27年4月の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正に伴い新たに義務化されたもので、地方公共団体の長が定めることとなっている。

この趣旨、背景であるが、市長は民意を代表する立場であり、教育行政については、大学及び私立学校を所管し、教育委員会の所管事項に関する予算の編成、執行や条例提案など重要な権限を有している。

また、近年の教育行政においては、福祉や地域振興などの一般行政との密接な連携が必要となってきている。

そこで、市長に大綱の策定を義務付けることにより、地域住民の意向のより一層の反映と地方公共団体における教育、学術及び文化の振興に関する施策の総合的な推進を図ることがねらいとなっている。

本日配布している平成30年度みやま市教育施策の1ページに、みやま市教育大綱を掲載しているが、平成27年度の総合教育会議において協議をいただき策定されたものである。それまで毎年作成していた「みやま市教育施策」を「みやま市教育大綱」として位置付けることや教育施策は市の総合計画や定住促進計画、更に前市長の施政方針等が基本となっていることが明記されている。

しかし、この度大綱の策定義務がある市長が新しく就任されたこと、また、これまで大綱の基本としていた、第1次みやま市総合計画も今年度新たに第2次みやま市総合計画として策定されることから、これまでの教育大綱は、改正する必要があると考えている。

また、地方教育行政法において、市長が大綱を定め、又はこれを変更しようとするときは、総合教育会議において協議するものとしてされている。教育大綱の作成については、事務局である教育委員会において素案を作成し、この総合教育会議において修正、決定いただければと考えている。

その前段として、これまでのように総合計画、定住促進計画、総合戦略、市長の施策方針等に基に策定、改正してよろしいのか。

また、これまでは「教育施策」が教育大綱と位置付けられていたが、大綱が対象とする期間については、法的定めはないが、市長の任期が4年、様々な基本計画が概ね5年であることから4年から5年程度が想定される場所である。

しかし現教育施策は年度ごとに、その年度の重点施策を始め、その年度の具体的な取り組み、目標、予算額等を明記しているため、教育施策を大綱として位置づけてはどうか、別だてとしたほうが良いのか、また、大綱については今年度策定し、来年度（令和2年度）から執行で計画してよろしいかご協議いただきたい。

【市長】 教育大綱及び教育施策の策定方針について、皆様方のご意見はどうか。

【井上教育委員】 平成30年度みやま市教育施策1ページのみやま市教育大綱は、以前の話ということではどうか。

【教育部長】 これまでの教育大綱は第1次みやま市総合計画が基本になっていたということである。

【井上教育委員】 第2次みやま市総合計画が策定された中で、教育に関わる部分をベースに大綱を作っていくという道筋なのか。

【教育部長】 そうである。

【井上教育委員】 その協議のための総合教育会議がまた開催されるのか。

【教育部長】 この会議にて今後の方針を決定いただければ、事務局にて作成した素案を協議していただくため、また総合教育会議を開催することになる。

【市長】 他に質疑等ありませんか。

【総務部長】 教育施策は毎年策定しているのか。

【教育部長】 毎年策定している。

【総務部長】 先程の説明は、教育施策を教育大綱として位置づけるということなのか。教育大綱の何年間かの部分は、この中期ビジョンの中に入れ込む形になるのか。

【教育部長】 当初会議の中で、この教育大綱と教育施策はセットになっており、具体的な施策は年度毎に目標や重要施策を掲げているため、教育大綱と教育施策は基本的に別立てで作っても良いのではと思う。

【井上教育委員】 一昨年度の総合教育会議でも話をしたが、みやま市教育施策1ページ～5ページの教育大綱及び教育施策の基本的な考え方、4～5年の中期ビジョン、重点事項、基本構想についての関連性が全く分からない。基本的には教育大綱がベースにあり、中期ビジョンがあって、今年度の教育施策があるわけで、3ページ程度で見直し整理する必要があるのではないか。

【教育長】 内容を十分検討し整理していきたい。

【樺島教育委員】 筑後市の教育大綱は、見開きで教育長が力を入れたい部分を何項目か書いてあり見やすく作ってあった。
みやま市は文字の部分が結構多く分かりにくいいため、他市等を参考にしながら見やすく分かりやすい教育大綱を作ってはどうか。

【総務部長】 第2次みやま市総合計画は平成31年度から10年間の策定で、5年間を前期計画とし残り5年間を後期計画とする。併せて定住促進計画の総合戦略を5年間で策定するようにしているため、総合計画に準じて5年間の教育大綱を策定してはどうか。

【市長】 教育大綱も5年間で策定していく。総合計画は6月議会にて提案される予定のため、その後に策定していくことになる。
また、他市等も参考にしながらみやま市独自の教育大綱を策定していきたい。

【教育部長】 今年度中に策定するとし、それまでにこの総合教育会議を何度か開催することになるが、よろしいか。

・・・全員同意・・・

(2) 学校再編計画について

【学校教育課長】 平成31年度第1回みやま市総合教育会議資料P13～15「学校再編計画について」①これまでの経過について、平成23年9月に「みやま市小中学校再編計画」が策定され、平成28年4月には第1グループである山川東部、山川南部、飯江、竹海小が統合し、桜舞館小学校が開校している。

現在、第2グループである本郷、上庄、下庄小学校が平成32年4月に瀬高小学校として開校予定であり、3校統合協議会を設置し、協議進行中である。

②第2グループの状況と課題として、施設面では給食調理場の拡張工事を本年度予算に計上し、グラウンドの拡張及び児童数増による下駄箱や教室の整理棚等の整備をしていく。

安全面では上庄校区居住児童で希望される方はスクールバス通学としているが、朝の運行時間数や距離も短いため業者選定に難航しているところである。

小学校の跡地利用について、上庄校区では上庄公民館として利用したいとの考えがあると聞いている。

放課後児童クラブ利用の上庄校区居住児童は、当面、現上庄放課後児童クラブを利用予定であるが、下庄放課後児童クラブからは同じ施設内で学童保育を行うべきであるとのご意見をいただいている。

また、下庄放課後児童クラブ施設の拡張及び駐車場の要望があっている。

その他に制服の選定と取扱販売店選定を同時に行っている。

校歌制作は與田準介先生にお願いしたいと考えている。校章デザインは4/26迄公募中である。

③現計画案、児童生徒の推移について別紙資料P14にて説明。

④現在の計画見直しの必要性として、計画策定から8年が経過し平成34年度には開小に複式学級が生じる予定である。

平成29年9月の決算審査特別委員会報告では、複式解消のための計画見直しを指摘され、平成31年3月の議員一般質問でも、大幅に遅れている再編計画に関する対応はどの質問をいただき、市長より複式学級や単学級解消に向けてスピード感を持って取り組むと答弁をいただいている。

第5グループの瀬高中及び東山中の統合については、現在のところ進展見込みがない状況である。

本日協議いただきたい具体的な対応として、複式学級の可能性が高いところから計画を見直し順番を変えてでも進めていくべきか。

再編計画の統合の枠組みは維持しつつ、第4グループである高田中学校校区の江浦小、開小、二川小、岩田小へのアプローチを進めてみてはどうか。

今後の学校再編の進め方としては、これまでの経験を踏まえて、就学中あるいは就学予定の子を持つ保護者を中心として進めていくべきと考えている。

学校再編の目的は複式学級の解消であり、今後の児童数推移等の情報は開示し、ご理解をいただきながら進めていく。

事前の取り組みとしては、保護者を中心としたアンケート調査を行い、どのように進めるのか検討する必要がある。

【市長】 学校再編計画について、質疑等ありませんか。

【井上教育委員】 第2グループのスクールバス利用について、上庄校区児童の希望者数は分かっているか。

【学校再編推進係長】

先日の組織部会にて上庄校区での新しい停留所等を提示し、地元のほうで協議いただくよう参考資料を作ってお渡しはしており、まだ希望数は分かっていないが、殆どの児童が希望するだろうと考えている。

【市長】 朝夕の短い時間のためにスクールバスを運行しなくても、コミュニティバスの運行ルートや時間を調整して運行する等、費用対効果も視野に入れて検討していくべきだと思う。

【市 長】 次に放課後児童クラブについてだが、先日3校統合協議会の方々が来庁され、上庄の放課後児童クラブと一緒にして欲しいとの要望があった。
ただ、施設が狭く拡張が必要であるため、敷地の調査検討をしているところである。

【樺島教育委員】 同じ学校になるため、放課後児童クラブの施設は一緒がいいと思う。

【市 長】 板橋県議が地域から聞いたご意見によると、校区公民館の運動会及び地域のお祭りに関して、子ども達の参加等の今後の取り扱いがどうなるのか不安であるとのことで、検討すべきではないかとのことであった。
もう一つは、今まである小学校の文化的遺産としての校歌や校章の取り扱いはどうするのか。特に與田準一先生が作詩された上庄小と下庄小の校歌の取り扱いについて、新しく開館する與田準一記念館に残しておくべきではないかとのこと。
また、楽譜や歌詞を書いた校歌をきちんと残して、出来れば子ども達が歌った校歌をCDに残しておくべきと考えている。

【樺島教育委員】 子ども達が歌った校歌を音源として残して、與田準一記念館にて流していただきたいと、先日の教育委員会定例会でも申し上げたところである。

【市 長】 次に、みやま市小中学校再編計画策定から8年を経過しているため、計画の見直しをすべきではないかと考えているが、皆様のご意見はどうか。

【樺島教育委員】 元々この再編計画が出来たのは複式学級の解消であるため、開小に複式学級が出来ると分かっているのであれば、見直す必要があると思う。複式学級が出来ると平成34年度までの3年間で、検討委員会等を立ち上げて進めていくべきだと思うが、現在学校再編推進係は第2グループ統合を進めているため、人員増と予算をつけて並行して進めていただきたい。
江浦小、開小、二川小、岩田小の第4グループは統合しやすいように検討委員会等で協議いただき、スピード感を持って取り組む必要があると思う。

【市 長】 それでは検討委員会等を設置して、学校再編計画の見直しを行うという方向でよろしいか。

(一同同意)

【学校再編推進係長】

平成25年11月に学校再編計画の統合時期の見直しをした際に、第2グループ以降は今後状況に応じて統合の時期を定めるとしており、統合グループの枠組みはそのまま、統合の順番は合意形成が出来たグループから統合していくことになっている。

【学校教育課長補佐】

基本的に教育委員会が決めた計画は状況に応じて定めるとなっているため、教育委員会内で変更をかける会議で決定していけば、時間はかからないと思う。

【市 長】

昨年第3グループである東山中の地元から小中一貫校についてどう思うかと聞かれたため、融合するには時間がかかるのとメリットとデメリットがあるとお伝えし、八女市で統合した小中一貫校の校長より尋ねてまとめたメリット、デメリットを水上小及び清水小の地元の方と一緒に見て今後の統合を考えていただきたいと話をしたところである。

ただ、1番大事なのは保護者であり、我が子が統合する学校に行くから、我が子がどういう環境で授業を受けるのか、また友達との環境について等が気掛かりだと思う。

八女市で統合した小中一貫校の校長によると、地域の了解を得ずして統合はあり得ない、無理やり統合しても後がもめるばかりであるため、両方のコンセプトを取った方が良いとのことであった。

また、保護者の意見で大事なのは保育園児、幼稚園児を持ち統合時に在籍する児童の保護者であると思っている。

統合に関しては慎重に行うべきであり、統合ありき再編ありきではなく、まずは保護者のアンケート調査をした上で判断していかなければいけないと思う。

【教育部長】

具体的に変更をかける前に、まず地域の要望や考え方を調査し、そのアンケートを基に今後の方向性等を再度協議しながら進めていくという事でよろしいか。

【樺島教育委員】

複式学級の授業内容を見れば保護者の方は他の学校に転校させた方

がよいのではないか、塾に通わせた方がよいのではないか等、不安になると思う。

開小の複式学級は避けてあげたいため、解消に向けて早め早めに取り組んでいただきたい。

【総務部長】 今の再編計画でも、枠組みさえ変えなければ統合の実施時期は明記していないため可能であると思うが。

【教育部長】 地域で合意形成が出来るのであれば、順番を変えてでも統合を進めることは出来るが、校舎改修等財政的な部分が出てくるため、市長部局と協議する必要がある。

(3) 学校地域連携について

【指導室長】 資料P16「コミュニティ・スクールについて」現在、子ども達を取り巻く環境が複雑化多様化していることから、社会総掛かりでの教育の実現が求められており、地域と共にある学校づくりを進めていくために、国は全ての学校をコミュニティ・スクールにするという方向で進めている。

これまでも学校は、自己評価、学校評価を行って、その評価結果について地域や保護者の方々に評価をしていただいていたし、学校評議員からもご意見をいただいていたところであるが、コミュニティ・スクールは学校や地域、子ども達が抱える課題に対し、保護者や地域の方々が参画するという仕組みづくりを行うものである。

そこで、みやま市としてはどのように推進してきたかという点、平成28年度にこの取り組みについて検討し、みやま市学校運営協議会制度試行規則を作ってきたところである。

平成29年度には、水上小、二川小、南小の3校に学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールに指定したところである。

平成30年度には、山川中、南小、水上小、二川小、下庄小、大江小、清水小、江浦小、開小を指定し、学社連携プロジェクトを立ち上げて、地域学校協働活動と車の両輪として進めているところである。

本年度は、統合予定の上庄小以外の学校は全てコミュニティ・スクールに指定している。学社連携プロジェクトを立ち上げ、推進体制を整えた等の成果もあるが、学校の地域連携担当者と社会教育課の地域コーディネータとの連携強化等の課題もあり、具体的な方策を取り進めていく予定である。

このコミュニティ・スクールによって色々な成果は出てきているが、みやま市ならではのコミュニティ・スクール、また学校によって組織

も違うし、状況も違うため急ぐことはなく学校ならではのコミュニティ・スクールを進めていただきたいと各学校へ指導助言をしている。

【社会教育課長】 資料P20「地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの関係性」について、地域学校協働活動から見た関係性であるが、社会教育法の一部改正により、地域と学校が連携し協働して地域全体で子ども達の成長を支え、その活動を通じて地域の活性化を図る取り組みが進められている。

みやま市でも平成30年度に地域学校協働本部を立ち上げており、学校支援活動、体験活動、学習支援活動の3つが活動の大きな柱である。今までは学校支援活動が中心となっていたが、今後体験活動及び学習支援活動も並行して行っていく。

体験活動での遊び体験は、既に公民館事業や社会教育課事業で行っており、自然体験では通学合宿事業で、昨年度は9校実施をしていただいております、今後強化をしていきたいと思っています。

芸術文化体験では公民館及び社会教育課事業として、昨年は山門高校に協力いただき科学教室を実施した。

学習支援活動では、サマースクール支援事業として小中学校へ大学生や高校生を派遣して、勉強の手伝いをしている。平成30年度は高校生が85名来ていただき、その内山門高校生66名に協力していただいた。また、瀬高中、桜舞館小、下庄小、二川小、水上小、南小にて放課後学習教室を進めていく。

資料P21平成30年度のみやま市子ども未来塾事業では、小学4年生及び中学3年生の希望者を対象に行っており、参加した子ども達からは、地域の人と一緒に勉強が出来て嬉しかった、学校の授業や宿題が分かりやすくなった等の感想をいただいている。

学習支援者からは、子ども達のやる気満々の姿を見て、エネルギーをもらっていますとの声をいただいている。

【指導室長】 地域学校協働本部とコミュニティ・スクールが連携したことで、地域から見れば学校を核とした地域づくり、学校から見れば地域と共にある学校づくりという事で連携・協働を進めることが出来ている。

この二つを車の両輪として進めてきたことで、地域の人達相互、また子ども達と地域の方々の繋がりが広がって深まり、学校に対して参画することの意識が高まってきたのではないかと思う。

また、学校と地域の研修会も行ったことで、其々が行っている活動がどのような意味があるのかも理解をしていただいた。

具体的に学校では地域学習が非常に充実してきており、地域の方々に

対して開かれた教育課程、学校がどのようなことをしているのか、また地域の方々や人、もの、ことをどのように学習しているのかを理解していただきつつあるかと思う。

また、学校からすればいつもゲストティーチャーにさせていただきだけでなく、地域に自分たちがどんな貢献が出来るのかというようなことで良好な関係で進めていくよう、取り組みも進められている。

また、地域行事の参加が増えてきたこともあり、生徒会とその地域の方々との関わりも出来てきているところもある。またボランティアの増加により見守り隊が立ち上がった学校もある。

地域からすればボランティアの方々の生き甲斐に繋がって、地域創生の方向からみても良かったと思っている。

課題も色々あるが、今後効果的に行うために組織や方向性についてのご意見をいただきたい。

【市 長】 学習支援活動として、昨年度は高校生より来ていただいているが、派遣依頼はどのようにしたのか。

【社会教育課長】 地域学校協働活動推進担当係長及び地域コーディネーターが中心となって、各学校と連絡を取りながら進めたところである。

【市 長】 ボランティアの方々へのお礼はどうなっているのか。
また、中学生への学習支援はしているのか。

【社会教育課長】 お礼程度として、図書カードをお渡ししている。
また、今のところの学習支援は、小学生のみとしている。

【市 長】 中学生が地元の高校を目指す上で小中高連携を視野に、市内にある唯一の山門高校と中学校との連携も深めていただきたい。

(4) その他

【指導室長】 これまでも小中連携は取り組んでおり、昨年度東山中学校で研究発表会を行い、この取り組みについて文部科学大臣の表彰を受けている。是非この研究も進めていきたいし、教育長が掲げている社会にはばたく力を育成するためには、小さい頃から自分の良さを活かし、自分が好きになり夢や目標を持って進路実現に向かっていく力をつけることが大事だと考える。

市長が進めている凡事徹底も学力や体力をまとめた社会にはばたく力になるのではないかと思う。そういう意味で、みやま市にある高校や

大学との連携も視野に入れて、また幼稚園、保育園との連携も視野に入れたキャリア教育のための幼保小中高大連携を進めていくことが出来ないかということで、プロジェクトチームを立ち上げて進めていくよう考えている。

【教育長】 幼保小連携は、子ども子育て課が中心となりネットワーク会議が開催されているが、その中で幼保の方から幼児の情報を小学校へ沢山いただくという連携を通じてかなり共通理解が出来るようになってきたため、更に推進していきたいと考えている。

小中連携はかなり進んでいるが、特に小学校と高校の連携で、小学生が市内で唯一の公立高校である山門高校生の姿を見ることによって、地元の高校に興味を持っていただくため、小学生と高校生が関わる機会を増やしていきたいと考えている。

【市 長】 中学校及び高校の多感な時期をどこで過ごすか、又、どういう友達と出会うかによってふるさと意識が違う。地元で育って地元をふるさととして認識する、将来的には地元の良さを分かった上で、他市に行っていたきたいし、またこのふるさとに帰ってきていただきたい。

この様な事から、この連携事業は非常に重要であると思うし、もう一つ学校教育の幼保小中高大連携の中で、みやま市というこの郷土が素晴らしい土地であるのだという教育をただ教科内容だけではなく、私達が住んでいる郷土の良さも是非とも伝えていただきたいし、郷土の良さは何なのかというと、気候条件や土地条件もあるかもしれないが、やはり素晴らしい先輩達、地域の方々、高齢者の方々の地域をぜひとも大事にしていただければ、みやま市の衰退は少しでも防げるのではないかと考える。

【総務部長】 新聞記事によると、文部科学省が高等学校の普通科改革をする中で、地域やまちづくりの指導者を育成するプログラムを普通高校に設け、取り組むような記事が掲載されており、それが正確かどうか分からないが、よければ高校の校長よりご意見をいただきたい。

市長が言われるように、みやまの良さ等が淘汰出来て山門高校のカリキュラムに活かしたら、山門高校の卒業生がみやま市を背負っていただくような循環が作れたら連携の姿になるのではないかと考える。

【市 長】 その他ご意見等ありませんか。

【宮本教育委員】 幼保小中高大連携の目的が社会にはばたく人材を育てるのであれば、

大学の後に企業も入れた方が良くはないか。企業も連携して将来に向けた人材を育成していく道筋が立つことが出来れば、より良い形になるのではないかと思う。

【市 長】 現在、中学校では職場体験活動にて様々な職場に行っており、企業体験キャリア教育の中で現場にいる方の講話等進めているため、それも是非進めていただきたい。

【北原教育委員】 幼保小中高大連携とてもいい取り組みだと思う。職業柄保育士をしているが、保育士の資格を持つ方が中々いないため、保育士が増えるような取り組みが出来たらと思う。
また、保育士の資格を取る学校が近くにないため、地元でどうにかならないかと思っている。